現在も利用されている関宿落堀

▲ 昭和50年代の風景

▲ 現在の風景

物が生産できるようになりました。水路は「随庵堀」の名で親しまれ、改修を重ねながら、現在も重要な水路として利用されています。

随庵は「関宿落堀」完成後も、新田開発を手がけ、整備された土地や新たに開墾された土地を整理し直し、農民に分配するなど、偉大な人物として藩内の農民に慕われました。

晩年には、随庵の才能を惜しみ、明治政府から参画の勧めがありましたが、高齢を理由に固辞し続けたといい、明治5(1872)年に78歳で亡くなりました。

随庵の功績を称えて、顕彰碑が明治28(1895)年に建てられ、今も「関宿落堀」を見守り続けています。